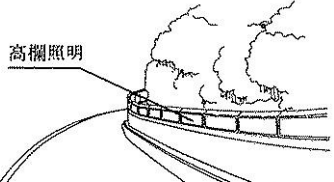
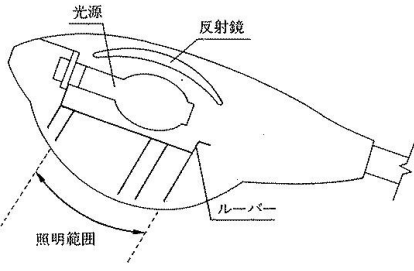
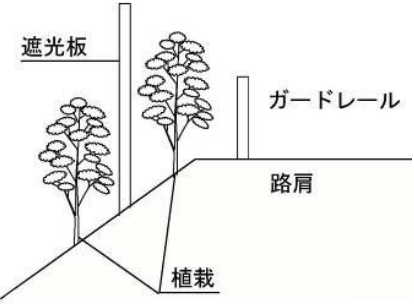


個票 12 照射範囲の最小化 [道 2(2)④3-1]

(2010年作成)

配慮の視点	種の多様性への配慮	配慮項目	野生生物の生息・生育環境の保全・創出
配慮事項	騒音などの防止		
配慮事例	光の届く範囲内を必要最小限にするための遮光植栽やライトの位置の検討		

内容	●照射範囲の最小化 【解説】 照明が動植物の活動や生理に影響を与えるため、施設照明やヘッドライトが周辺の生物に影響を与えないよう配慮することが生物多様性への配慮につながります。 そのため、必要に応じて、光の漏れる範囲を最小化する照明の設置位置と設置方法の検討や遮光板や遮光植栽の導入も検討します。 【具体的な工法・配慮事項】	
	●高欄照明  出典:1	① 照明の設置位置を検討することで、外部に光が漏れないようにします。
	●ルーバー付き照明  出典:1	① 照明灯具の中に光の照査範囲を限定するルーバーという器具を取り付けて道路の外側に光が漏れないようにします。
	●遮光版や遮光植栽 	① 道路の外側に遮光板や遮光植栽を設置し、道路の外側に光が漏れないようにします。

【事例】

出典:3

【場所】

鬼首道路 秋田県雄勝町～宮城県鳴子町

【環境配慮の内容と方法、工法】

- 鬼首道路は天然ブナ林が広がる栗駒国立公園を通過する。
- トンネル内部とパーキングエリアの照明に高圧ナトリウムランプを採用し、光の不要な拡散を防止するためにルーバー付灯具を使用している。

留意点

参考資料

- 1 「エコロード 生き物にやさしい道づくり」 亀山章編、ソフトサイエンス社
- 2 「自然との共生をめざす道づくり - エコロード・ハンドブック -」 (財) 道路環境研究所 エコロード検討委員会、大成出版社
- 3 「鬼首道路 エコロードへの挑戦一人と自然にやさしい道路をめざして」 鬼首エコロード研究会、大成出版社